

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 6 日

所属	商経学部	職名	准教授	氏名	越川 靖子
研究課題	ブランドネームにおける日本語の影響と日本語の印象についての研究				
研究キーワード	ブランドネーム、日本語、五十音、音象徴、	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	8.働きがいも経済成長も	9.産業と技術革新の基盤をつくろう	該当なし	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>2022 年度は大規模アンケート調査を行ったが、まず質の良いデータを得るために委託調査会社の選定に時間をかけた。調書が採択される以前から行っていたが、委託調査会社でも扱ったことのない種類のアンケートであるため担当者と綿密に打ち合わせを行い実施したため、当初想定よりも時間がかかった。</p> <p>また、自身の研究において大規模調査および調査において委託することは初の試みのため、手間取ったといえる。エラーとみなすデータの基準等について、自身の基準が何度か揺らいでしまったことも挙げられる。初めてのことでばかりで予想以上に手間や時間がかかってしまったが、来年度はアンケート調査においての問題は発生しにくいといえる。しかし、データ取得や整理に時間がかかってしまったため、2022 年度中に論文を完成し発表するところまでは進まなかった。現在執筆中である。2023 年度はこの失敗や問題点がわかっていることから、円滑に研究を進めることができるといえる。</p> <p>一方で、自身の興味や関心の一つとである地域やまちづくりの研究では、一つの研究会の長を任せられかつ発表を行うことができた。またこの発表から地域デザイン学会本大会において、討論者として発表への総括および議論を発表者で行った。未だかつてない貴重な経験ができただけでなく、今後の研究への示唆や見通しを得ることができた。2023 年度はこれらの論文および発表を積極的に行う予定である。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>なし</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>なし</p> <p>【学会発表等】</p> <p>「フェスの過去・現在からみる未来について」、地域デザイン学会・第1回地域アート&フェスフォーラム、2022 年 7 月 23 日（土）、オンライン</p> <p>3. 主な経費</p> <p>科研費基盤研究（C）による調査から追加が必要になり、アンケート業者委託費に使用した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>【科学研究費】</p> <ul style="list-style-type: none">・基盤研究（C）：令和4年度～令和7年度、代表者、課題名「五十音音象徴の体系化への挑戦」（22K01767） <p>【その他の活動】</p> <ul style="list-style-type: none">・2年ゼミ生と株式会社コロワイド・牛角との産学連携					

(本文は2ページ以内にとめること)